

実行するようにしています。

Q.かなり効率よくできた組織体系になっていますね。

粥川部長／感染対策に時間がかかると感染症が広がる危険性があるので、短時間に集中的に無駄なく対策が打ち出せる組織にしています。

伊奈副院長／院内感染対策は、医師主導だけで行えるものではありません。医療にかかわっているすべての関係者が加わらなければ効果は上がりません。そういった意味で医師、看護師、薬剤師、検査技師、それに事務職員といわば病院全体の関係部署から感染対策チームは構成されています。

粥川部長／院内感染対策は病院の総合力が問われていると言っても過言ではありません。それほど重大なことなのです。

Q.北原さんは、名古屋記念病院でただ一人の感染管理認定看護師ですね。

北原看護師／そうです。専従で院内感染対策に取り組んでいます。

Q.感染管理認定看護師として果たす役割は。

北原看護師／感染症やMRSAといった耐性菌に関する情報

の収集と集約です。そして、その情報を各科・各部署に発信します。そのうえで必要な対策を取らなければならない事態が



生じたときには直ちに連絡を入れ、具体的に動く、といったことが主な役割です。

伊奈副院長／北原看護師の役割は、感染対策室と医療現場の各科・各部署をつなぎ院内感染対策を確実に、また、効率よく実行するための実務的な司令塔的な立場の看護師といえます。

Q.松浦さんはどういった役目を担っていますか。



松浦看護師／私はICTのメンバーとして医療現場に行ったり、感染対策委員会に出席したりして実際の活動を側面からバックアップし

ています。

粥川部長／松浦看護師は、豊富な看護師経験などから感染対策における責任者の立場にいます。

伊奈副院長／院内感染の拡散を防いだし、予防するには患者さんを隔離する必要があり、どうしてもベッドコントロールをしなければなりません。そうした場合、スムーズにベッドコントロールができるように看護部との橋渡しや調整の役割を果たしてくれているのが松浦看護師で、その役割は大変大きく、頼りにしています。



Q.田尻さんは薬剤師ですが、薬剤師としてどのような仕事をしていますか。

田尻薬剤師／耐性菌や感染症に対して薬剤を投与する

場合、どういった薬剤が一番効果的な効き目を示すかといったことを常に念頭に持ち、適切な薬剤情報を提供しています。また、血中濃度を測定し、薬剤が血液中にどの程度保たれているかを調べ、薬剤の投与の仕方や使い方などを医師に伝えています。

私自身も薬剤師として実際に患者さんのベッドサイドで服薬指導をしているので、自分の目で薬剤の効果をしっかりと確かめるように努めています。

粥川部長／薬剤の血中濃度をモニタリングしながら抗生物質や抗菌薬などが適正に使われるかどうかを知ることは治療上重要なことなので田尻

さんの薬剤師としての役割は院内感染症対策で決して欠かすことのできない存在です。

Q.榊原さんは検査技師ですが、検査技師として院内感染対策にどのようにかかわっていますか。

榊原検査技師／感染検査結果をより早



く、より正確に検査して医師やICTメンバーに結果を報告することです。院内感染は時間との勝負でもあり、時間がたてばたつほど感染症もひ

ろがります。このことから名古屋記念病院の臨床検査部では24時間、365日体制を維持して院内感染の発生に対応しています。

伊奈副院長／いかに素早く、かつ正確な検査結果が出るかどうか院内感染の対策上、大きなカギを握っています。そういった意味で、榊原さんの果たす役目は計り知れないものがあります。

榊原検査技師／ひとたび院内感染が集団発生すると入院患者さんや家族の方に過大なご迷惑をお掛けします。そうした事態にならないように検査の結果を監視し、集団発生にならないように検査技師としての特性を最大限に発揮して取り組んでいます。

Q.最後に名古屋記念病院の今後の院内感染に対する取り組みを話してください。

伊奈副院長／名古屋記念病院では感染症の発生を早期に察知し、また、院内感染が発生したとしても最小限で食い止め、入院患者さんには安心して入院生活を送っていただくように多職種が一丸となり、万全の体制で意欲的に取り組みます。

